

平成 30 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後に期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 高 等 学 校

平成30年度 学校評価

[各校の重点取組について]

『生きる力』の理念に基づき知・徳・体の総合的な育成を目指し、本校の特色である「文武両道」を極める。

(未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成を目指し、より良い社会を作る人材の輩出に努める)

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3.3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 新しい時代に求められる資質・能力を育成するために「アクティブラーニング」の視点から授業改善に取り組む。 家庭との連絡を密にして、早い段階での手当を講じてボトムアップを図る。 インクルーシブ教育の視点から、特別な支援を必要とする生徒の情報を共有して、一人ひとりを大切にした指導を行う。 成長期の食育を通してバランスのとれた、健康な身体づくりを目指す。 体育の授業や課外活動を通して、運動能力や体力の増進を図り、心身ともに健全な青少年の育成する。 新体力テストの実施、経年データの実施の分析等により、体力及び運動能力を客観的に把握し、健康な身体づくりに取り組む。 本校の特色「文武両道」の実践の為に、部活動を奨励すると同時に一人ひとりの現状に合った体づくりを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育推進委員会を立ち上げて、新しい学習指導要領に則したアクティブラーニングも含めた指導方法の研究を進めている。 特別支援教育コーディネーターを中心にインクルーシブ教育に向けての研修を行っているが、実際にそれと分かる重度の生徒が在籍していないことによる関心の高まりにかけるところがある。またその逆で、いろいろな場面を想定することで守備範囲が広がり、バーチャルであるにも関わらず疲弊感が出てきている。 運動能力や体力の増進の観点からの食育を進めているが、家庭の理解と協力を求めるためには、保護者への丁寧な説明が必要である。 	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もががしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方についての考えを深める学習を通じて、道徳的な判断力や心情、実践力を育成する。 一人ひとりの生徒がそれぞれの目標を持って主体的に活動できる環境を整えるために、各種アンケート等を実施し、実態の把握と同時に、多面的な生徒理解に努める。 カウンセリング委員会を定期的に開催し、生徒全体あるいは個人の情報について共有を深め、いじめ等の早期発見に努める。 人権尊重の精神で、偏見と差別の本質を正しく捉え、その解決に向けて取り組む姿勢を養う。 ボランティアに係わる体験的な学習等、教育活動全体を通じてキャリア教育に取組み、計画的な進路ガイダンスを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種アンケート(保護者アンケート、生徒アンケート、授業アンケート、いじめアンケート等)を実施し、生徒や保護者の視点からの意見を広く集め、実態の把握に努めた。記名か無記名かについては、それぞれデメリットとメリットがあり課題である。 スクールカウンセリング派遣事業を活用し、そこからの情報を基にカウンセリング委員会を開催して、生徒の状況・状態の情報を共有し、早期の対応に努めた。 人権を特に集中して考える機関を設けて、人権についての学習・啓発を行った。 早朝、有志による学校周辺の清掃ボランティアを継続して実施している。全校的に広めていくのが、次の課題である。 	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.9	3.3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の改訂に伴い、教員一人ひとりが、その趣旨を理解してシラバスの見直しを図る。 業務改善の観点から大胆に「スクラップ&ビルド」に着手する。 学校も地域の一員として、地域に対して求めるべき部分は求めていき、ウィン・ウィンの関係を構築できることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の祭りやイベントには積極的に取り組み、地域の一員としての役割を果たすとともに、学校の広報にも努め、地域とは良い関係を築いている。 主権者教育やSNS対策、登校時の自転車指導等、直接学校教育ではなく、本来社会教育の範疇のものも抱え、教員が疲弊感を感じながらも、学校に対する周囲からの期待がありスクラップは難しい。国全体の意識改革が必要と感じる。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.9	3.2
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全体を通じて安全教育を行う。自転車乗車時の交通ルールへの指導および歩行中のマナーの指導、また自転車通学においては自転車保険加入の徹底を図る。 校内安全衛生委員会等で、定期的に校内施設の安全点検および危険箇所の早期発見、修繕等対策に努める。 自然災害等から自らの身体生命を守るために、総合避難訓練や救急救命講習等を活用して、「日常からの心がけ」の啓発および災害遭遇時の行動について指導する。 教職員全員がAEDの操作に慣れるように、講習等を積極的に受講するなどして、生徒の安全を確保する努力をする。 大規模災害時には、まず生き残ることを第一とする。その次は自分が救助者となるという意識付けを試みる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒対象とは別に、教員全員を対象の救急救命研修を実施した。教員が率先してAED等の扱い方に慣れることにより、生徒の安全の向上に努める。 安全衛生委員会による定期的な校内の施設点検に加えて、全教職員からの校内施設の破損箇所および要修繕箇所情報を収集した。 通学に自転車を利用するものについて自転車保険に加入することは、ほぼ定着したと判断している。 総合避難訓練や救急救命講習・震災記念行事等で、大規模災害時には、まず自分が生き残り、次に生き残った者が救助者にならなければならないという意識付けができた。 	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.2	3.1
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「人間尊重の精神に徹し、一人ひとりを大切に人間の育成」のために困ったとき生徒が相談しやすい環境を整え、いじめ、体罰の根絶を目指す。 ・ 「真理を愛し、文化の創造と発展に寄与する人間の育成」のため国際感覚を養い、多面的な視点を養うことを目指す。 ・ 「個性豊かにして創造性と自主的精神に富んだ人間」の育成を目指し、ボランティア活動や文化部活動に取り組む。 ・ 体育に関する知識や高度な運動技能の習得を通じて、知・徳・体の調和の取れた人間形成を目指すとともに、体育・スポーツの振興に寄与する態度を育てる」ために一人ひとりの状況に応じた適切な指導を行い、運動部としての競技実績の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ、体罰の根絶に向けての職員研修を行い意識の改革に努めているが、社会の動きに学校(大人)がついていけない部分があり、更に研修を進めていく必要を感じている。 ・ 学校全体のうねりにはなきていないが、学校周辺の清掃ボランティア等に自発的に取り組む生徒も出ている。今後の広がりに期待したい。 ・ 文化部活動には部によって活動に差がある。しかし、学校の文化を支えるのは文化部の活動に寄与する部分が多いのは事実であり、今後は文化部の下支えを学校として考えたい。 		

研究テーマ「主体的・対話的で深い学びの授業研究」		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.8	3
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、大学教授の助言を仰ぎながら研究を進め、授業の工夫改善を図る。 ・ 外部検定試験や大学入学共通テストなど、高大接続改革について調査研究を進め、高大連携の促進を図る。 ・ 校務支援に関するICT環境の構築を進め作業の効率化を図る。 ・ 新学習指導要領の内容を確認し、学習の効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した学びについては設備の整備も含めて、まだ取り組みは不十分であると思われる。 ・ 大学教授の助言も仰ぎながら早急に取り組むべき課題であると認識している。 ・ 新学習指導要領に基づいた、新しい学びのあり方について校内で一定の研究を進めているが、内容としては十分と言えない部分もあり今後に取り組むべき課題を多くのこしている。 		

学校関係者評価

- ※ 評価Ⅲの基準
- | | |
|--|--|
| 4: よく取り組んでおり、成果が大きい
2: 取り組んでいるが成果が十分でない | 3: 熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1: 取組が不十分である |
|--|--|

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析に基づく体づくりがしっかりと出来ており、部活動の実績に結びついている。 ・家庭との連絡を密にして、より一層の食育の充実を推進されたい。 ・大学進学が全てではないが、近年益々進学実績を伸ばしている。 ・不確実な要素の多い未来に生きなければならない生徒の為に「確かな学力」の育成に益々試行錯誤しながら取り組まされたい。 	4
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報をカウンセリング委員会を中心に学校全体で共有して、早期対応に努めている。 ・各種アンケートの実施に取り組み生徒理解に努めている。 ・常に生徒に「目標と希望」を持たせられるような教育の実践に取り組まされたい。 	4
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学区域が広範囲になったという高校特有の課題を抱えながらも、地域行事に積極的に取り組んでいる。 ・情報発信はホームページで事足りるものではなく、保護者への丁寧な説明が肝要であり、今後も更に取り組まされたい。 ・吹奏楽を中心に地域の活動に参加、または運動部生徒の模範演技等、地域の活力にも貢献している。 	4
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を高めるため、研修・講習等に積極的に取り組んでいる。 ・阪神大震災では校舎が全壊となった学校でもあるので、防災に対する意識を更に高める工夫も検討されたい。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の具現化に向けて、教職員が意欲的に取り組んでいる様子がうかがえる。今後とも文武両道の校風を充実させられたい。 ・文武両道の観点から、文化部の隆盛にも取り組まされたい。 ・どのような生徒に育てたいのかという教育目標が必ずしも明確にはなっていない。今後に期待している。 	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より一層の授業改善と公開授業に取り組まされたい。 ・根の張ったICTを活用した教育にするための施設の充実に取り組まされたい。 ・同時に施設の導入だけで終わらせず、積極的な取り組みに向けての中味(教育課程等)の研究に取り組まされたい。 ・「主体的・対話的で深い学び」には教職員の意識の改革にも取り組まされたい。 	3
■	
<p>評価項目 (A: 優れている B: 適切である C: おおむね適切である D: 要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	A
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	A